

第 6 回統計改革推進会議における意見

委員 宮川 努

統計行政新生部会の報告につきましては、基本的な考え方について異議はありません。ただ、統計行政に関する 8 つのステートメントは、統計というものを使って政策を行っていくうえで当然の考え方であり、これらをあらためて繰り返さなくてはならない状況の下で、統計改革推進会議の当初の目的である GDP 統計の改善を中心とした様々な統計改革が推進できるかどうか、ということについて危機感をもって臨まなくてはいけないと感じています。

その意味でこのステートメントより重要なのは、それを実現するためのタスクであると考えます。特に統計人材の育成は急務です。これについて、報告書では統計職員の研修や資格について、統計部局の積極的な関与が書かれていますが、むしろ将来的には、政府の中で中核的な役割を担う統計部局が専門職員を一括採用し、基本的な統計業務を修得後、各省の統計部局に配置していく、その際に統計を利用した政策の研修を各省毎に実施するという方向性が望ましいと考えております。以上が私の意見です。